

# ふれあい

保護司会だより

令和7年11月発行

新発田阿賀北地区保護司会発行

第82号



初秋に咲く

写真 渡部直登 保護司

## 更生保護について

新潟保護観察所長 綿引 久一郎



「更生保護」…聞き慣れない言葉ではないでしょうか？

犯罪や非行により逮捕され刑務所や少年院に入った人も、やがては社会に戻ってきます。しかし、彼らが「真面目に生きていこう」と反省しても周囲から理解してもらえず、また仕事や居場所がないなど、孤立した環境に陥っては、不良交友に居場所を求めたり生活や気持ちが行き詰まるなど、再び過ちを犯すことに繋がりがかねません。

更生保護とは、犯罪や非行から立ち直ろうとする人を、地域社会の一員として受け入れ、彼らの立ち直りを支援し、安全・安心な社会を築いていこうとする取組です。

この取組では、法務省の

国家公務員である保護観察官が、地域にいる更生保護ボランティアの人達と一緒に活動しています。その代表が保護司です。また、子育て支援や少年院等への慰問活動等をする更生保護女性会、雇用の機会を提供する協力雇用主、少年達への学習支援等を行うBBS会等が、それぞれの立場で取組に協力してくれています。

安全・安心な社会は、誰もが望むものですが、その達成には多くの人の力が必要です。例えば「立ち直ろうとしている人を差別しない」「そんな姿勢でも集まれば大きな力となります。自分ができることを持ち寄ること、それが安全・安心な社会作りに繋がれることをご理解いただければと思います。



更生ペンギンの  
ホゴちゃんとサラちゃん®



令和7年8月16日土曜日胎内市において「社会を明るくする運動」の一環として上映会が開かれました。

「前科者」という映画を観て保護司の役目、仕事内容を少し知る事ができました。映画の中で誇張されている部分はあるとはいえ、犯罪をした人の更生をサポートする事の難しさと様々な手段を使い、寄り添う主人公に心を打たれました。

本作の主人公は、過去の体験により保護司になろうと決めたシーンがありました。罪を犯した人が、「孤独になる前に保護司が寄り添えば再犯を防ぐ事ができるから」との思いでした。また、保護対象者や、映画での被害者は、自身の生い立ちの中で、凄惨な事件に巻き込まれた幼少期が描かれていました。人間関係や、周りの環境によって犯罪者になる事は決して映画の中だけではないような気がします。映画の主人公のように寄り添う事ができれば犯罪を少なくする事ができるかもしれません。また、「いじ



め」や「虐待」を無くす事ができるのであれば歪んだ社会は、少し明るい社会になるかもしれません。実現するには、大変ですが、一人一人が「寄り添う」事を意識すれば、少しは良くなる事だと思います。ラストで更生された人と主人公が「友達だから」と話すシーンが有ったのは非常に感動的で忘れられません。こういう関係性を構築できる世の中になるように自分なりに行動して行こうと思います。考えさせられる映画だと思います。

令和7年5月28日水曜日胎内市において、久保仁保護観察官を迎え「発達障害について」と言う演題で定例研修会が行われました。

初めに境界知能障害による生きづらさについて分類と諸問題の説明がありました。非常に取り扱いの難しい内容だと思われまふ。また、その問題によって引き起こされる非行・犯罪は周辺の人間関係にも影響を与えるかもしれません。例として挙げられたのは、中学二年生の男子。窃盗・暴行など「二言で括れば「荒くれ・非行」で片が付くそうです。「この例について本人の発達障害のいかに関わらずに各々話し合いを考えてみましょう」と討議の時間となりました。私は単に所以から経緯から結果までを想像することの不得手さや自分だけが取り残される焦りなどが原因の一部かと考えましたが、事例の説明の中に「中三になつて問題のある行動が治まった」と記されていたことが不思議に思えました。非行からエスカレートという流れが想



令和7年度 応募状況		
	参加校数	参加人数
小学校	24校	582人
中学校	11校	88人
計	35校	670人

標記作文コンテストに本年もたくさんのご応募をいただきました。

この作文は、犯罪や非行のない社会を願って、日頃の生活の中で感じたことや考えたことを書いていただきました。この中から小学校の部および中学校の部より3名ずつ地区の代表として県に推薦させていただきます。報告いたします。

ご指導やお力添えをいただきました学校関係者や保護者の皆さまには深く感謝申し上げます。

**映画「前科者」を観て**

胎内分区 延本 龍太郎

**第一期定例研修会**

広報部 渡部 直登

**第75回 作文コンテスト**

「社会を明るくする運動」のお礼

地域と交流をとおして、地域福祉の向上と差別や偏見のない社会の実現を

新発田市の人権の拠点「新発田市隣保館」

隣保館館長 渋谷 道弘

隣保館（りんぽかん）は、1997年4月に新発田市の人権の拠点として開館しました。「隣保」とは、隣り合う地域が良い関係を保つという意味があります。

その名のとおり、地域の皆さんがつながり、支え合う場所を目指しています。

ここでは、部落差別をはじめさまざまな人権問題の解決に向け、地域交流の場を提供するほか、様々な困りごとの相談をおこなうなど、いろいろな活動を行っています。

人権の問題は、自分とは関係のない問題とか、どこか遠いところの話、また、昔そんな問題あったよね、などと考えていませんか？

最近では、毎日、人権に関する報道があったり、インターネット上の誹謗中傷があったり



地域の小学生を対象にした「隣保館ふれんどすくーる」

と、誰にとっても身近な問題となつています。人権無視は、時代遅れなのです。

だからこそ、人権について「自分のこと」として考えることがとても大切です。

隣保館では、地域の皆様との交流をとおして、差別や偏見のない地域社会の実現を目指し活動しています。人権問題講演会や、健康体操、書道教室、子どもたちとの交流、また、各種サークル活動など多くの皆様から利用いただいております。

これからも人と人とのつながりを大切にしなが、より多



新発田農業高校の生徒さんの指導による「寄せ植え体験教室」

より良い演奏を目指して

新発田市立東中学校 三年 肥田野 智 菜

私たち東中学校吹奏楽部は、「音楽を楽しむ」を合言葉に、日々の練習に励んでいます。練習は、水曜日と日曜日以外ほぼ毎日行い、基礎練習や個人練習、パート練習などをバランスよく取り入れています。基礎的な音階練習やリズムトレーニングを大切に、個人の技術を高めていくことはもちろん、仲間とのアンサンブル力を高めることに



も努力しています。

練習に取り組む際の心構えとして、私たちは「聴く姿勢」と「思いやり」を大切にしています。自分の音を出すだけでなく、仲間の音を聴くことで、全体の響きを整えることができます。また、お互いを尊重し、助け合いながら活動することが、良い演奏につながると思ひます。

これまで、他校との合同練習会や、校内の行事などで演奏し、多くの経験を積んできましたが、私たちの今後の目標は、コンクールで金賞をとることです。そのために、日々の練習に真剣に取り組む、より高いレベルを目指して努力を続けていきます。音楽を通して心を一つにし、聴いてくださる方々に感動を届けられるよう、これからも全員で頑張っていきたいと思ひます。

豊かな心を育てる音楽

顧問 神田 佳子

東中学校吹奏楽部は、新たな仲間が十三名加わり、三十名の新体制で活動しています。

より良い音色、演奏技術の向上を目指し、吹奏楽コンクールに向け、日々の練習に力を入れています。

日常の指導では、言葉遣いや挨拶、礼儀なども適切に行えるよう声をかけています。

また、一人一人の個性を大切に、のびのびと自分らしさを発揮できるような環境作りを考えています。

人を尊重し、相手のことを考えなければ、お互いの音を聴き合うことができません。一方通行の音楽になってしまひます。心を通い合わせ気持ちを一つにすることが最も重要だと思ひます。

音楽は、生涯親しむことができ、大事な仲間と出会うことができます。

子ども達には、吹奏楽や演奏することの楽しさを、少しでも多く届け、豊かな人生を歩んでほしいと思ひます。



## 研修◆視察

赤城少年院

「僕らの胸は小さいけれど」

研修部部长 東分区分 加納 龍雄

「いちーにーさん！しー」

ものすごく元気な声がフェンスに囲まれた運動場より聞こえてきた。一般の人を寄せ付けないような、そして中型バスがやっと通過できるほどの急な坂道を上がって10月6日群馬県にある赤城少年院へ会長、副会長はじめ保護司会16名は視察研修に行ってきた。

少し古いその少年院は全国で9番目に出来た施設で敷地面積は東京ドーム約一個分の広さを誇って、さながら隣の千貫（せんがん）沼をお堀とした城郭の様であった。

その施設では関東甲信越のが帰ってきた川浜高校は以前にもまして荒れた高校に戻ってしまふ。そこで、高校教師と成った元ラグビーオールジャパンの滝沢賢治との攻防がはじまる。ドラマの中で水原の父親は炭鉱の落盤事故で亡くなっており、母親も生きられない。そういう生い立ちもあり水原も荒れていったのだろう。水原だけではない、「川浜一のワル」と恐



12歳から16歳の男子、約70名が生活している。中には小学生も過去に居たという。収容期間は約11か月。引受人がいなければ退院出来ない。

かつて大映ドラマ「スクール☆ウォーズ」では番長の水原（みずはら）が少年院から退院してきて高校生なのに白のスーツで登場するというシーンがあった。少年院では髪型は坊主頭ということだが、その水原は退院してきてすぐであらうにもかかわらず、いわゆるリーゼントの様な頭であった。

それはさておき、番長水原が帰ってきた川浜高校は以前にもまして荒れた高校に戻ってしまふ。そこで、高校教師と成った元ラグビーオールジャパンの滝沢賢治との攻防がはじまる。ドラマの中で水原の父親は炭鉱の落盤事故で亡くなっており、母親も生きられない。そういう生い立ちもあり水原も荒れていったのだろう。水原だけではない、「川浜一のワル」と恐

でもドラマでは、そこに滝沢賢治が身体を張って時には殴ってでも真剣に向き合ってた。決して暴力、犯罪を肯定するわけでもないし、不幸な境遇だから許されるわけではない。しかし、一番大事なこ



とはしっかり本人と真剣に向き合うことである。

赤城少年院の教官も彼らと真剣に向き合い資格取得のカリキュラム、色々な作品の数々も素晴らしい。更生にむけて真剣に取り組んでいるのが2時間にも及ぶ説明で時間が足りないほど、本当に熱心さが伝わってきた。

講堂には赤城少年院の院歌「僕らの胸は小さいけれど」という歌詞があり涙が自然とこぼれた。バスに揺られ赤城少年院を後にした。彼らの更生を願って止まない。

### ★保護司の異動

#### ●新任保護司

よろしくお願ひします。

中山 いつ子（新発田市）

長島 徹（新発田市）

関川 淳一（阿賀野市）

#### ●退任保護司

おつかれさまでした。

渡邊 定雄（新発田市）

長谷川 稔（新発田市）

小池 三四（新発田市）

長谷川 節男（阿賀野市）

## 会員募集

### 新発田地区更生保護女性会

担当者 会長 田 中文子

TEL 0254 (24) 5075

### 新発田市協力雇用主会

担当者 会長 高 島 健二

TEL 0254 (27) 0122

ぜひ、更生する人の力になってください。  
お電話お待ちしております

あとかた

連日の猛暑で庭の木々、田の稲や畑の野菜は必死に命を繋ぐと、水を欲しているその様子に心を痛めた暑い暑い今年の夏でした。そのような暑い中に、ご多忙のところ原稿をお願いいたし快く玉稿をお寄せ頂きました。皆様方に心から感謝・御礼申し上げます。今回も多くの皆様にご覧いただけますように創意工夫を重ねたつもりですが、果たして評価はいかがだったでしょうか。これからも広報部皆で励み歩み続けたいと思います。皆様くれぐれもご自愛くださいませ。

広報部 浅野 キヨ